

## 日々のあそびの延長にある発表会

秋のわくわくフェスティバル(運動会)時に、社協3園の行事のあり方、考え方についてお知らせしました。今回の発表会も子どもが主体で、日々の遊びや学びを大事にした内容になっています。これまでの保育者主導の一斉的な行事は、見栄えや出来上がりを意識した内容に偏りがちでした。子ども達は、蚊帳の外であったことは事実です。発達を考えず0.1.2歳児も以上児と同じような出し物をさせていました。衣装を着せるとそこにいるだけでかわいらしい年齢です。しかし非日常のことに不安がり嫌がって泣くことも多々ありました。また、感覚に敏感な子ども達は、いつもと違う恰好や、舞台上上がることに抵抗を示すこともありました。あたかもその嫌がる子ども達が問題かのように、保育者同士で語り合ったこともあります。**個々の発達を無視していた私達保育者自身が問題だったのです。**

内閣府の「認定こども園保育教育要領」で示す、園の行事は、

①園の自然な生活の流れの中から、園児が主体的に楽しく参加できるようにすること

②保育、保育の価値を検討し、適切なものを精選し園児の負担にならないようにする

とあります。

今回0.1.2歳児(ばら、たんぽぽ、さくら組)さんは、日々の遊びと育児行為(食事など)を映像でお見せします。中味は、全く同じものです。**これは0歳児から2歳児までの教育保育が途切れ途切れでなく、発達に応じてつながっていることをご紹介します**からです。以上児は(ひまわり、ゆり、すみれ組)は、縦割りクラスで発表します。

3.4歳児さんは、作ったものやできるようになったことを発表。5歳児さんは、劇です。子ども同士や担任と話し合い出し物や役、小道具などを決めたそうです。子ども達の遊びは模倣です。鬼ごっこやお店屋さんごっこでは、役があります。そして自分たちのイメージで場面設定をしたり、物を見立てて遊びます。**これらが集約されたものが劇です。**役決めの時、物語の中に悪者とされる役もあります。誰かがしないと成り立たないから「僕がする!」と言ってくれたそうです。縦割りクラスの**7人ずつで演じる劇は、主役や脇役に固執することもなく、大勢の中の1人でもなく、誰かの影に隠れることもできません。だからひとりひとりの責任とスポットが当たる劇になると思います。**5歳児(すみれ組)さんが、演じる劇をお楽しみください。

## スローな遊びを子ども達に=(昭和の遊び)

今園では、リリアン編やこま回し、長縄跳び、鬼ごっこなどが流行っています。本格的な冬に向かうこれから先は、剣玉やあやとり、折り紙などが加わり正に昭和の遊びのオンパレードになるはずですが、『子どもが主体の教育保育』を進めてから、一年間の子どもの遊びや活動が毎年、同じように繰り返されることを痛感します。季節や保育者側からの仕掛けもありますが、自然と子ども達の中から昨年行った遊びが、再び回ってくるのです。

前回(No.22)、子ども達の間に遊びの伝承があるとお知らせしました。4歳児(ゆり組)は、5歳児(すみれ組)のすることなすことを見ています。だから自分たちが進級して年長になるとモデルのお兄ちゃん、お姉ちゃんのしてきたとおりの遊びや挑戦を繰り返しています。本当に不思議です。

令和の現代、子ども達の周りにメディアやSNSなどの環境が溢れています。家庭に帰れば、大なり小なり目に触れていることでしょう。ゲームやYouTubeなどが、子ども達の間で話題になることも少なくありません。タッチするだけで、場面が切り替わり次から次に動画や映像が、子ども達の目に入る…。私達大人は、これが当たり前と認めて良いのでしょうか?

アップルの創始者スティーブ・ジョブズをはじめ、アメリカのテクノロジーのCEO達は、自分の子ども達には、厳しく制限をかけ管理をしていた話は有名です。それは、スマホやタブレット、パソコンなどの弊害や危険を自分自身が経験し、子ども達に悪影響が起こることを知っていたからです。

**メディアやSNSに触れる時間を制限しませんか?**0歳から6歳までは、特にそうです。脳の細胞は画期的に増えていく年齢です。そんな成長過程にある子ども達の脳や精神、生活習慣に悪影響を及ぼさないために大人による制限と管理が必要になります。**スマホやゲームの依存症は、アルコール中毒や薬物中毒と同じです。**入院して治療しないと治りません。多くの医師や教育関係者が警鐘を鳴らしています。私達大人は、少しでもそれらから遠ざけて、スローな遊びや環境を用意することが責務だと思います。

私達社協3園は、スローな遊びにこだわっています。こども園で過ごす6年間は、頭や手、身体を直接使う遊びを楽しんで欲しいからです。冒頭で述べたこのような遊びは、簡単にできるものではありません。**自分で考え繰り返し試し、挑戦してその技術を自分のものにしていく遊びです。**一つ一つができるようになった時、達成感であふれ、自信となり自尊心はあがっていきます。

そして、その技術をまた、年下の友達に伝えていく。そんな子ども達の一年間の遊びの繰り返しは尊く、子ども達への愛しさが、こみあげてきます。